

令和7年度第2回ヨコハマeアンケート

脱炭素社会の実現に向けた本市の取組に関するアンケート

実施期間 令和7年4月18日（金）から4月28日（月）

事業所管課 脱炭素・GREEN×EXPO推進局 脱炭素マネジメント課

回答者数 1,610人（回答率：31.5%）

【参考】eアンケートメンバー数 5,108人（4月18日時点）

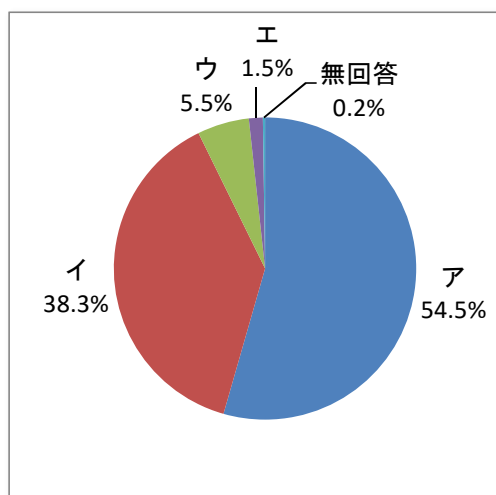
年代別、横浜市内在住・在勤・在学別の回答者構成比

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
横浜市内在住	1 (0.1%)	33 (2.0%)	138 (8.6%)	231 (14.3%)	436 (27.1%)	461 (28.6%)	301 (18.7%)	1,601 (99.4%)
横浜市内在勤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	7 (0.4%)
横浜市内在学	1 (0.1%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)
計	2 (0.2%)	34 (2.1%)	140 (8.7%)	232 (14.4%)	438 (27.2%)	463 (28.7%)	301 (18.7%)	1,610 (100.0%)

Q1 気候変動とは、人間の活動に伴って発生する二酸化炭素などの温室効果ガスが増えることによって地球の気温が上昇する地球温暖化や、自然の要因などによって気温や降水量などが変動することをいいます。あなたは、「気候変動」が引き起こす問題に関心がありますか。
(単一選択)

n = 1,610

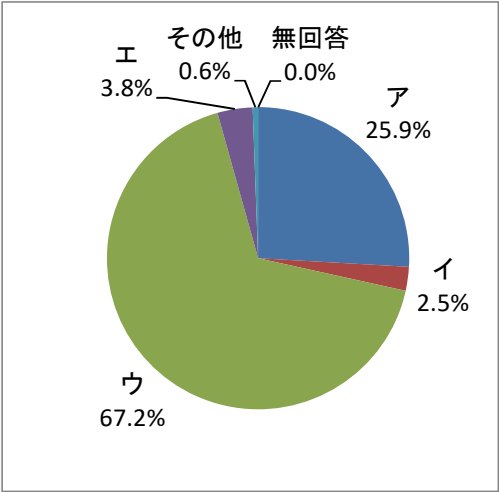
ア	関心がある	54.5%	876
イ	ある程度関心がある	38.3%	617
ウ	あまり関心がない	5.5%	89
エ	まったく関心がない	1.5%	24
無回答		0.2%	4
		100.0%	1,610



Q2 気候変動による影響を抑えるためには、「脱炭素化」に向けた取組を進め、温室効果ガスの排出を減らすことが重要です。「脱炭素化」に向けて、あなたはどのように行動したいと考えますか。
※「脱炭素化」:様々な活動に伴って発生する温室効果ガスの排出を削減するほか、森林などによる二酸化炭素の吸収を強化すること。
(単一選択)

n = 1,610

ア	すでにできる範囲で行動している	25.9%	417
イ	今の生活スタイルを大きく変えて、積極的に行動したい	2.5%	41
ウ	今の生活スタイルの中で、工夫しながら行動したい	67.2%	1,082
エ	行動したいとは思わない	3.8%	61
その他		0.6%	9
無回答		0.0%	0
		100.0%	1,610



その他(抜粋)

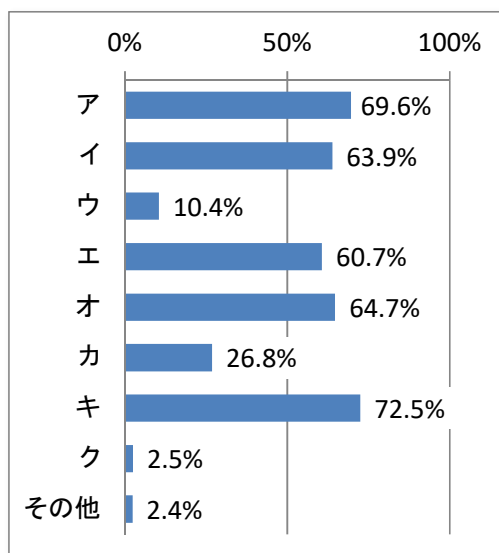
個人でできることは非常に限定されていて、全体に影響を及ぼすものが少ない。
本当に二酸化炭素を減らすだけで、温暖化は防げるのか疑問です。
もっと行動したいが何をしたら良いかわからない。

Q3

普段、個人でできる環境や脱炭素化に配慮した行動をしていますか。
 ※「ク 現在は取り組んでいない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,610

ア	使い捨てプラスチック製品(ストローなど)を不要なときは受け取らない	69.6%	1,121
イ	自宅の電気やガス、水の使用量を把握し、省エネ・節水に取り組む	63.9%	1,029
ウ	環境に配慮した電力会社を選んで契約する	10.4%	168
エ	移動には徒歩や自転車、公共交通機関を可能な限り利用する	60.7%	977
オ	宅配便は時間指定や宅配ボックスを利用し、1回で受け取る	64.7%	1,042
カ	環境に配慮された製品・商品を選んで購入する	26.8%	432
キ	買い物時の工夫など、食べ残しや食材のムダ(食品ロス)を減らす	72.5%	1,167
ク	現在は取り組んでいない	2.5%	40
その他		2.4%	38



その他(抜粋)

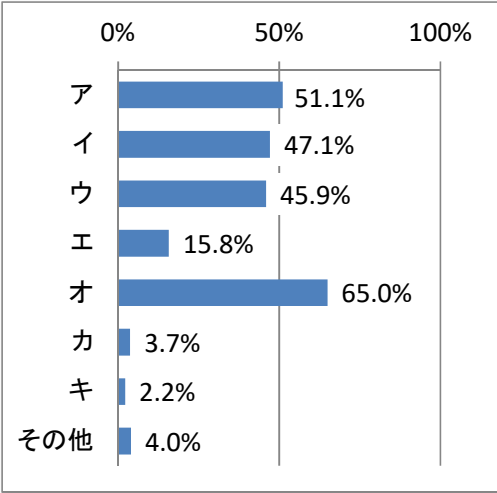
電気自動車を購入し、エコな運転を心掛けている。

徹底したごみの分別

消灯、ファンヒーターの適正温度での運転

Q4 あなたが、脱炭素化の取組をするうえで、問題・課題と思うことは何ですか。
 ※「キ 問題・課題に思うことはない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,610		
ア	経済的なコストがかかること	51.1% 822
イ	手間がかかること	47.1% 759
ウ	どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足していること	45.9% 739
エ	日常生活の中で意識して行動するのが難しいこと	15.8% 254
オ	どれだけ環境面での効果があるのかわからないこと	65.0% 1,046
カ	取組を行う必要性を感じないこと	3.7% 60
キ	問題・課題に思うことはない	2.2% 35
その他		4.0% 64



その他(抜粋)

問題意識や自分のことという意識を感じていない人が多いと思う。

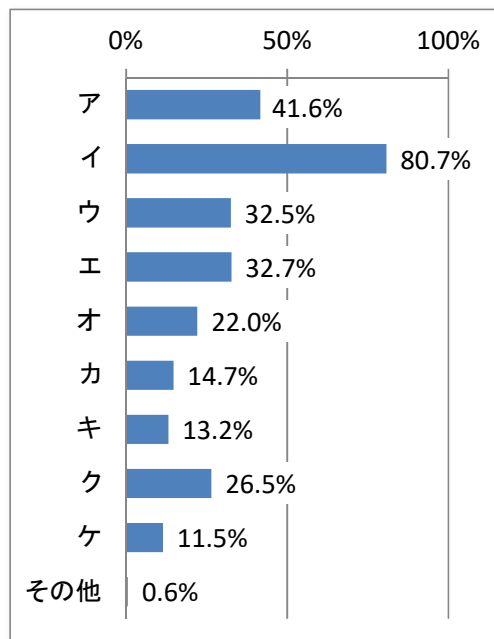
脱炭素を掲げている商品、取組は多いが、単なるPRに過ぎず、本当に脱炭素につながっているのか疑問である。

自分の取組によって得られた効果が見えない。

Q5 本市が行っている、または今後実施する脱炭素化の取組のうち、知っているものはどれですか。
※「ケ 知らない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
(複数選択可)

n = 1,610

ア	公式ウェブサイトやSNS、広報よこはま等を活用した情報発信、環境教育の実施	41.6%	670
イ	プラスチックの分別などのリサイクル、ごみの減量化の取組	80.7%	1,300
ウ	再生可能エネルギー(太陽光発電、風力発電など)の普及に向けた取組	32.5%	524
エ	住宅(建物の断熱化など)や家電などの省エネを進める取組	32.7%	526
オ	次世代自動車の普及に向けた取組(電気自動車導入への補助、急速充電設備の普及拡大など)	22.0%	355
カ	脱炭素化に配慮したまちづくりの取組(地域単位での省エネ・再エネ導入の推進など)	14.7%	237
キ	企業の脱炭素化を支援する取組や企業と連携した新技術の普及(ペロブスカイト太陽電池など)	13.2%	212
ク	市役所における脱炭素化に向けた取組(公共施設のLED化、太陽光発電設備の設置など)	26.5%	426
ケ	知らない	11.5%	185
その他		0.6%	9



その他(抜粋)

緑化や施設見学

自転車の利用促進とその環境整備

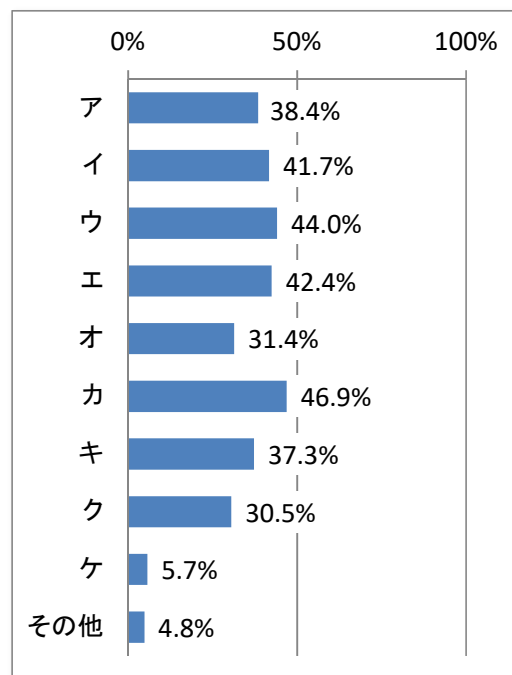
公共交通の利用促進(横浜市営バスの環境定期券制度)

Q6

今後、本市に重点的に取り組んでほしい脱炭素化の取組はどのようなことですか。
 ※「ケ 特にない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,610

ア	公式ウェブサイトやSNS、広報よこはま等を活用した情報発信、環境教育の実施	38.4%	619
イ	プラスチックの分別などのリサイクル、ごみの減量化の取組	41.7%	671
ウ	再生可能エネルギー(太陽光発電、風力発電など)の普及に向けた取組	44.0%	709
エ	住宅(建物の断熱化など)や家電などの省エネを進める取組	42.4%	683
オ	次世代自動車の普及に向けた取組(電気自動車導入への補助、急速充電設備の普及拡大など)	31.4%	505
カ	脱炭素化に配慮したまちづくりの取組(地域単位での省エネ・再エネ導入の推進など)	46.9%	755
キ	企業の脱炭素化を支援する取組や企業と連携した新技術の普及(ペロブスカイト太陽電池など)	37.3%	600
ク	市役所における脱炭素化に向けた取組(公共施設のLED化、太陽光発電設備の設置など)	30.5%	491
ケ	特にない	5.7%	92
その他		4.8%	78



その他(抜粋)

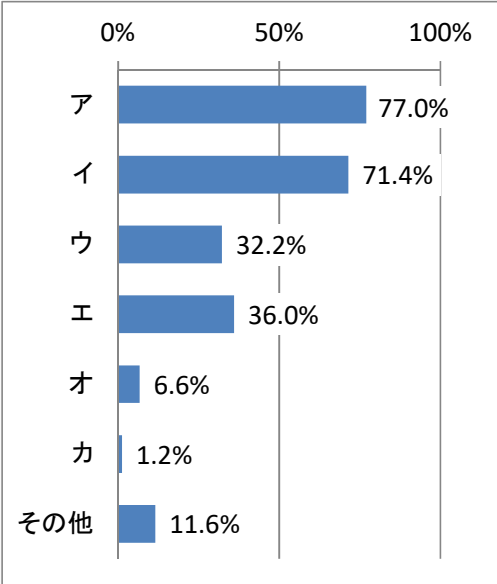
今以上に緑化を推進する。

公共交通機関の充実

個人、家庭への支援の充実

Q7 本市では、屋根置き太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入を進めています。太陽光発電設備を導入・利用することについて、あなたは、どのようなことが課題だと思いますか。
※「カ 課題に思うことはない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
(複数選択可)

n = 1,610		
ア	経済的なコストがかかること	77.0% 1,239
イ	導入や維持管理に手間がかかること	71.4% 1,150
ウ	どのように導入すればよいか情報が不足していること	32.2% 518
エ	どれだけ環境面での効果があるのかわからないこと	36.0% 580
オ	導入する必要性を感じないこと	6.6% 107
カ	課題に思うことはない	1.2% 19
その他		11.6% 186

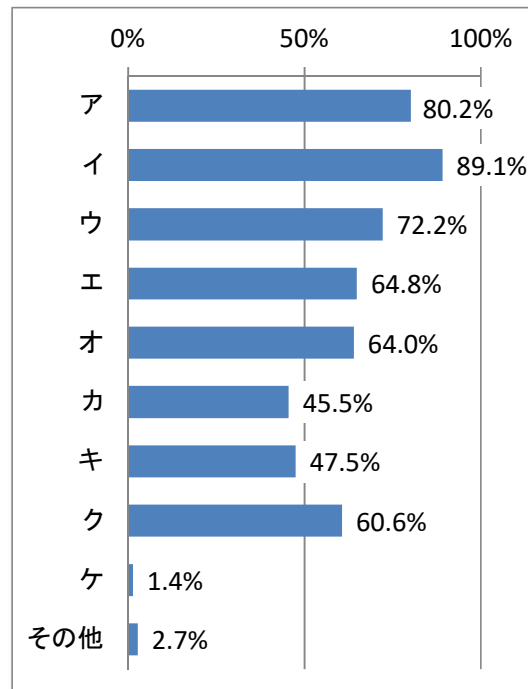


その他(抜粋)
太陽光パネルの廃棄問題
集合住宅での利用が難しいこと
現時点では海外メーカーの参入が多く、国内メーカーの衰退につながる。

Q8 地球温暖化などの気候変動は、将来にわたって自然や日常生活に様々な影響を与えることが予測されています。あなたは、どのような影響が問題だと思いますか。
※「ケ 特に問題はない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
(複数選択可)

n = 1,610

ア	農作物の品質や収穫量の低下、漁獲量が減少すること	80.2%	1,291
イ	局地的大雨、洪水、高潮などによる気象災害が増加すること	89.1%	1,435
ウ	気象災害により生活や経済活動に影響がでること	72.2%	1,162
エ	夏場の気温上昇により不快感が増すこと	64.8%	1,044
オ	熱中症のリスクが増大すること	64.0%	1,030
カ	デング熱等の蚊を媒介とする感染症のリスクが増大すること	45.5%	732
キ	暖冬により桜の開花が早まるなど、植物や野生生物に影響がでること	47.5%	764
ク	気温上昇により海や川等の水環境が悪化すること	60.6%	976
ケ	特に問題はない	1.4%	22
その他		2.7%	44



その他(抜粋)

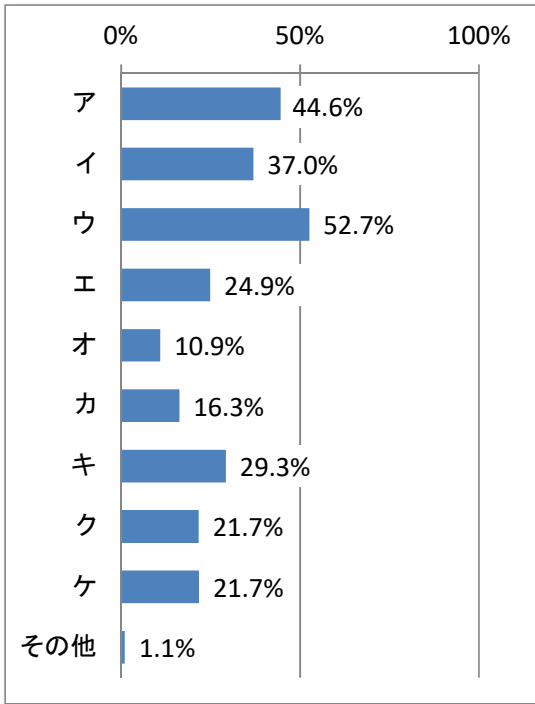
地球温暖化は太陽の活動だと思う。脱炭素化の取り組みだけでは根本的な解決にはならない。

熱中症回避のために、エアコン使用が必須となり、結果、ヒートアイランド現象が起き、電力需要も増加し、さらなる二酸化炭素発生につながりかねないこと。

生物多様性が失われる。

Q9 温室効果ガスを減らす取組を進めても避けられない気候変動の影響に対して、その被害を軽減し、より良い生活ができるように取り組むことも重要です。
気候変動の影響の軽減に貢献する本市の取組のうち、知っているものはどれですか。
※「ケ 知らない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
(複数選択可)

n = 1,610		
ア	局地的大雨、洪水、高潮などへの防災対策	44.6% 718
イ	公園や樹林地、せせらぎなどのグリーンインフラとしての活用	37.0% 595
ウ	緑化の推進	52.7% 848
エ	熱中症対策	24.9% 401
オ	デング熱等の蚊を媒介とする感染症対策	10.9% 176
カ	港や海における藻場・浅場の形成や活用	16.3% 263
キ	屋上や壁面の緑化などの、まちの暑熱対策	29.3% 471
ク	気候変動の影響や対策についての情報提供や普及啓発	21.7% 349
ケ	知らない	21.7% 350
その他		1.1% 17



その他(抜粋)

上記対策が気候変動に伴うものという認識がどれだけあるでしょうか。これらの原因と温暖化を明確に結びつけ、市民意識を環境行動に向けることはできないか。

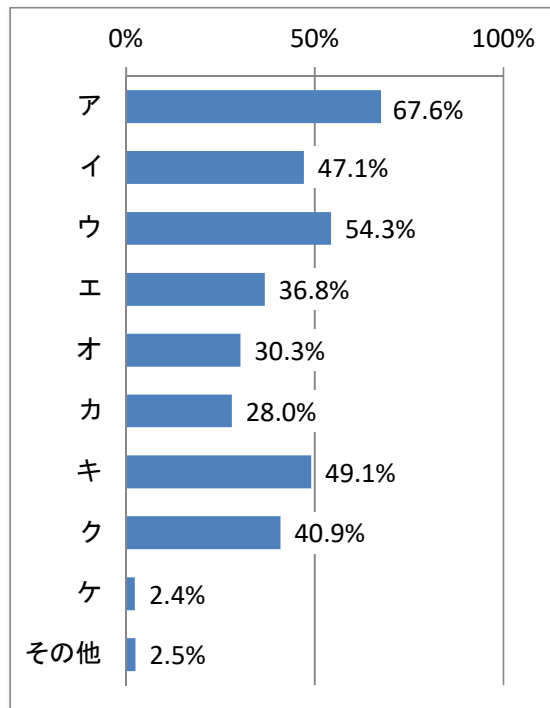
私たちの生活につながるように、対策の具体的な取り組み方や場所なども明記すれば印象に残り易い。

広報は盛んだが実際の行動が伴っていない。

Q10 気候変動の影響の軽減に貢献する本市の取組のうち、今後重点的に行ってほしいものはどれですか。
 ※「ケ 特にない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
 （複数選択可）

n = 1,610

ア	局地的大雨、洪水、高潮などへの防災対策	67.6%	1,088
イ	公園や樹林地、せせらぎなどのグリーンインフラとしての活用	47.1%	758
ウ	緑化の推進	54.3%	875
エ	熱中症対策	36.8%	592
オ	デング熱等の蚊を媒介とする感染症対策	30.3%	488
カ	港や海における藻場・浅場の形成や活用	28.0%	451
キ	屋上や壁面の緑化などの、まちの暑熱対策	49.1%	790
ク	気候変動の影響や対策についての情報提供や普及啓発	40.9%	659
ケ	特にない	2.4%	38
その他		2.5%	40



その他（抜粋）

緑化に伴う補助

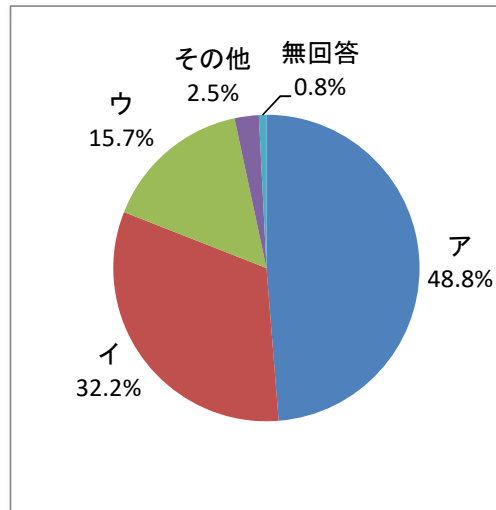
すでに取り入れられている熱中症対策のクーリングスポットや、ペットボトルへの冷水補給処のさらなる実効の伴う進展

経済も環境の一つであり、費用対効果も考慮すべき。日本の利益となるかどうかとも必要。

Q11 国や自治体は、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロに向けて、様々な脱炭素化の取組を進めています。本市が、より良い環境を未来に残すために脱炭素化の取組を進めることについて、あなたはどのように思いますか。
(単一選択)

n = 1,610

ア	国より高い目標を掲げ、先進的に取り組むのが良い	48.8%	785
イ	国と同じ目標を掲げ、取り組むのが良い	32.2%	519
ウ	国よりも低い目標でいいので、できる範囲で取り組むのが良い	15.7%	253
その他		2.5%	41
無回答		0.8%	12
		100.0%	1,610



その他(抜粋)

取り組む必要はない。

市の現状(住環境、経済活動など市民個々の生活に合わせる)に則した目標設定を行う。

まずは国が先行してしっかりとやるべきことです。

Q12 脱炭素化に向けた取組や、「横浜市地球温暖化対策実行計画」(※)について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。
※「横浜市地球温暖化対策実行計画」:2050年の温室効果ガス排出実質ゼロに向け、2022(令和4)年度から2030(令和12)年度を計画期間とし、2030年度の温室効果ガス排出50%削減(2013年度比)を掲げて、脱炭素化の取組を進めるための計画です。

関連URL「横浜市地球温暖化対策実行計画」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/jikkou/keikaku/plan.html>

(自由意見)

(抜粋)

一人一人が何をしたらいいかを、選択肢を示して、出来ることをまず実践できるような提案をしてほしい。

みどりを増やして脱炭素を進める。街路樹や公園、公共施設などの緑化推進。

本当に効果のある事を、積極的に、横浜らしく、取り組んでほしい。

太陽光発電、電気自動車の導入補助金を手厚くしてもらいたい。

2030年度温室効果ガス排出削減目標を50%削減(2013年度比)、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロを目指していくことは、非常にハードルは高いと思いますが、一方では待ったなしの政策であり、是非とも他自治体とも十分な連携のもと「トップランナー横浜市」として、その推進役を担うことを大いに期待します。

まずは公共施設を中心的に取り組んでいくことで市民に関心を持ってもらえるよう計画してほしい。

お金を掛けずに、工夫してほしい。

まずは自分の身の回りから出来ることを今すぐに、の思いを込めて実践していこうと思います。

まずは取組易いところから大勢で取り組んでももらいたいと考えます。

子供の頃から脱炭素化の重要性を認識するような教育が重要と考えます。